

第 6 回鹿児島市文化芸術推進基本計画策定委員会における意見について

No	意見
1	「現計画の包括的な課題が記載されていない」に対し、現対応状況（案）では回答になっていないと感じる。「3 本市の文化政策の現状と課題」の本文をみても、現状はあるが課題の記述はない。課題に触れているのは文化薫る事業のみであるので、（1）市が実施する文化芸術に関する取り組みや文化施設の課題もパブコメに際して提示すべきだったし、本文においても市民意識調査などを元にした取り組むべき課題を示すべきと考える。
2	乳幼児の芸術体験についての意見が多い。子どもに含まれると言えばそれまでだが、より積極的に取り組む姿勢を示すため、基本方針3（1）の【主な取り組み例】の最初に「乳幼児（期から）の芸術体験事業」を入れてはどうか。
3	市と関連する各種文化芸術団体に所属していなくても、市内には様々な分野の文化芸術活動に取り組む個人や小規模グループがあるし、また他分野で活動しながら文化芸術に関心のある市民も多い。そのような市民との協働を強調するために、1策定の趣旨、下から3行目「市全体で文化芸術振興の取り組みをすすめる」→「市民と協働をはかりながら市全体で」としてはいかがか。また、第4章計画の推進の図において、鹿児島市の矢印と対称になる箇所に、やや大きめに市民を配置すると協働のイメージがわくがいかがか。
4	5年に一度の市文化政策パブリックコメントは貴重な意見と考える。市民の意見を次年度以降具体的な事業へと落とし込む際に参考にできるよう、何らかの手立てがあればいいと考える。
5	市民の皆さんのご意見をすべて拝見し、細部に至って様々な意見が出されていることに、気付かされることも多くあった。やはり、文化は様々な人の生活や生き方に大きく関わっており、ひとまとめにはできないものがあるかなとも思った。
6	幼少期から文化的活動に参加させることなど、多くの意見があったが、現在はスマホなど身近に映像だけが氾濫している。身体を動かして表現するという機能、触れる機会が必要である。学校公演など、市内年間どのくらい公演が行われているのか。ジャンルなどはどのような割合なのか。現在はコロナで行われていない所などもあると思うが、資料があれば教えてほしい。
7	かつて、地域公民館（教育委員会管轄）では、ひとりー学習？ひとりー芸？などと云われていたように思う。文化振興課と教育委員会の連携はこれからますます重要視されていくものと思われるが、今後どのように体制をとっていくのか？
8	4の「過去にとらわれ過ぎているのでは」という意見は、同意見を持つ市民がある程度現れる可能性がある。ただ、これといった代案もなくどのように表現するべきか現在も考えている。美術の例として3人の画家が記載されているが、「日本を代表する洋画家」の「洋画家」は、明治維新後、油彩画家と日本画家を区別する目的で表されている言葉であり、翻せばそれ以降の美術分野の中に日本を代表する作家が現れていないような示し方となっているのかもしれない。「文化芸術に関係が深い都市」を表すものとして過去の歴史や人物を取り上げることが、肯定的にも否定的にも受け止められる難しさを感じる。